



第20号

発行 旭区高殿5-6-41 大阪府立旭高校同窓会 発行人 上浦康平 編集 旭窓会報編集委員会

先輩後輩



同窓会会長 四期生 上浦康平

今年も、炎天下のもとで夏の高校野球が甲子園で行われました。夏休暇もうまくとれたのか試合を見る時間が多くあり久しぶりに野球つげのゆつたりした日を過ごすことができました。バルセロナオリンピックに引き続きオリピックに劣らない感激を数々与えてくれた。全国で勝ち抜いてきた実力伯仲の学校の戦いであるから当然であろうが白球に対するそれぞれの思い出を胸に全力でぶつかる姿は何時見ても熱くなるものを感じる。その裏には、母校のチームのため、同級生をはじめ、学校関係者、地域のみなさんとして先輩が全国から後輩のプレーを見に集まる。これはど力強く美しい。ある学校の応援で、先輩がスタンドで後輩のプレーの一つ一つに涙を流して見物している様子を見せられた。同じ学び舎で過ごした結び付きがこのような態度になって表れるのだろうか。

先輩後輩、この言葉の響きの中には、血のつながりに似た愛情が含まれていると思う。社会



母校近況

会員の皆様におかれましては、日々ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。さて、創立四十四年目を迎えました今年度の四月から特色ある府立高校づくり事業の一環として本校に国際教養科が設置されました。八〇名の生徒が入学をいたしました。三名の生徒が入学を語学を中心に、を二〇単位以上履修することになり、英会話を学習するためにLH完成し、四十六アリスが九月に完成いたしました。A.E.Tも二人、英国人、米国人が着任いたしました。さらに、体育とクラブ活動の

校長 石井康男

振興に寄与する目的でトレーニングルームが設置され、有効に活用されています。ところが、二〇〇数年前の生徒急増期の増学級時に視聴覚教室(南館1階の階級教室)が普通教室に転用されて以来、現在まで復元されていません。平常の授業にも不便と支障をきたしているに違いありません。一日も早く視聴覚教室の復元設置を要望しています。しかし十年余で校舎の全面改築が予定される状況がある関係で、視聴覚教室の新築は一切認められない状況にあります。現在は設置場所の選定に苦慮いたしております。母校の現状の一端を紹介いたしましたが今後とも暖かいご支援をお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

旭で学んで



一九九二年 二期生 近藤和孝

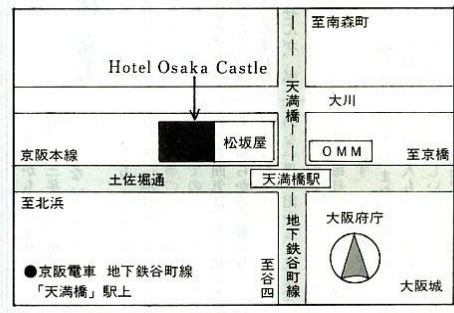
一年生の四月、新しい制服に身を包み、少しばかりの緊張感とともに、この学校の門をくぐった事がまるで昨日の事のようにです。あの頃は、中学時代とはすべた違い、驚きと緊張の連続で毎日過ぎてゆきました。とまどいと不安の中、クラスメイト達と助け合い、はげまし合い、時には意見がぶつかり合う事もありました。そのおかげで心からわかりあえる友をつくる事ができました。

一年生の時は、高校生活を過ごしていく上での土台作りの充実した一年間でした。二年生になると、学校生活にも慣れ、マイペースで勉強に、遊びに、楽しく過ごせたあつという間の一年間でした。今は、一年生の頃、あんなに大人びて見えた三年生に自分になつてしまいました。思えばこの旭高校で、十六、十七、十八歳と、大切な青春時代を過ごせた事を、大変嬉しく思い、誇りにさえ思っています。すばらしい友に巡り合い、一生、恩師として暮らせる先生方に出会い、本当にすばらしい高校時代であったと思います。大げさなようですが、今の素直な気持ちです。もうすぐ、卒業です。私達はそれぞれの道を歩む事になります。一人一人、物の考え方や感性は違いますが、この旭高校で過ごした三年間は、これからの人生の中で大きなものになると信じています。

大阪府立旭高校同窓会

10月25日(日) 大阪キャッスルホテル

記 日時 平成4年10月25日(日) 午後4時30分開会(総会を開会します) 場所 大阪キャッスルホテル ☎(06)942-2401 大阪市中央区天満橋京町1-1 (京阪電車・地下鉄谷町線「天満橋」駅上) 会費 6,000円(当日受付でいただきます)(34期以降は3,000円) 出欠のハガキは10月10日までに必ずご返送ください 恩師、同僚を囲んで楽しい一時を



楽しかった

昭和二十七年、第四十八高等学校として創立されたから四〇年を経過した旭高校の同窓生は一万二千人余りのメンバーとなる伝統校に変わった。現在では、全国で数少ない、国際教養科を新設された期待校までに成長した。卒業生も社会でそれぞれの分野で頑張っている。この仲間たち楽しそうでしょう。厳しい世の中で、厳しい生活の中で同じ学び舎で学んだ顔顔。この一時はストレス解消にどれ程役立ったでしょう。卒業生諸君、今年もその機会が来ました。ぜひ出席してこの楽しさを味わってください。先輩、後輩の関係をより強めてください。



10周年記念同窓会立旭高

一分もあれば昔に戻れる夢の同窓会にぜひ参加してください。あの人、この人も、恐ろしい人も、やさしかった人もこの一時は楽しかった青春時代の友達です。(上浦康平記)



創立40周年記念同窓会 大阪府立旭高等学校同窓会



# ゆとり無きゆとり



六期生 梅本 憲史

「日本人は働きすぎだ」と欧米人が口をそろえて非難する。勤労は美德ではなく、産業界の国際社会ではアンフェアな競争だという。カロシ(過労死)が国際語にまでなり、日本の勤労者はまるで地獄の役務に酷使されているかのように宣伝されている。

しかし、一部ではそういう職場もあるかもしれないが、それはあくまでも一部例外のことであって、はなはだしい誤解である。

だいたい、この求人難時代にそんな劣悪な労働条件下では、働き手が来るはずもなからう。私のみどころでは、日本のサラリーマン諸君は、かなりゆとりのある職場生活を楽しんでいるものとみられる。それも終身雇用、ある程度充実した福利厚生などの条件下で。

それほど職場が楽しいためであらうが、職業も厭わぬし、ときには休日出勤だって平気だ。ある意味では、家庭にいるより過ごしやすいのかもしれない。

長期休暇なんてとんでもない。同僚に負担をかけるだけでなく、考えようでは「自分がいなくて動いていく」ことの証明となる。要するに、勤勉は国民性なのである。

だが、国際世論というわけにはかなわぬ。三十何年も前から「レジャー」という言葉が制へと進展した。そしてついに

は長期連続年休。  
何せ、欧米諸外国の年間総労働時間数とかいう数字をひびりだしてきて比較するもんだから、どうしてもわが勤勉なる日本の脸色が悪くなる。

この二つ統計的な比較をする場合は、双方の基礎条件を等しくしなければならぬのが常識である。時間給を基礎に成り立っていて、一週間分の実労働時間にならず、残業を支払われる国と、欠勤しても給料はカットされず、残業すれば割り増し賃金のつく日本とは、比較値が公正でない。

しかしこれも、経済大国となった日本へのやっかみからくるものとはあらず、多少の風当たりもまたやむを得ないか。

週休二日もやろう。ときまじに週休の真のただ中、生産調整にも不役立とう。レイオフよりはましか。

ところが、同種の風が教育界にまで吹き寄せてきた。「勉強し過ぎ」ということから、ゆとり教育、そしてこちらも週休二日制ということになってきたが、これは国際圧力との関係にある。日本の義務教育が世界的水準にあるのは、第一が父母の教育熱意、第二に子供たちの自身の勉強意欲によるものである。

学歴社会、進学競争というような是正を要する一面もあるにはあるが、これもよく考えてみれば、高等学校卒業の総理大臣を出した国でもある。先日も亡くなられた松本清張さんだって、何の学歴がなくても全国民が大作家と認められている。日本国は決して学歴社会でなく、実力社会なのである。その実力をつけるための手段にすぎない。

手段は他にいくらでもある。「ゆとり」とは、余裕のあることであり、余裕とは余りがあつて豊かなこと(広辞苑)である。

経済的に余裕を生むためには、日ごろからしっかり働かねばなるまい。勉強に余裕を生むためには、日ごろからしっかり勉強にいそまねばなるまい。そのあとに、おのずからゆとり

# 同窓会を愛するが故に



六期生 大野 幸征

私の勤務先は関西西廣済堂という、総合印刷業を営んでいます。所属部署は印刷事業本部名簿営業部、全国の高校・大学及びその同窓会を得意先として、コンピュータによる会員管理から不明者調査を含めた会員名簿の作成、記念誌の作成などを手掛けています。

その関係から私は、北は北海道から南は沖縄までのいろいろな同窓会とその活動状況を見てきました。母校並びにそこに学ぶ在校生をバックアップしている同窓会もあり、母校と訣をわかれ、独自の活動をしている同窓会もあります。そうかと思えば、その活動自体が完全に沈静している同窓会もあり、また、一人の野心家によりその組織を私物化されている同窓会もあります。

いまでもなく、同窓会のあるべき姿は、その活動を通じて会員相互の親睦をはかることは勿論、母校並びにそこに学ぶ在校生のために何をすべきか、

手前は他にいくらでもある。「ゆとり」とは、余裕のあることであり、余裕とは余りがあつて豊かなこと(広辞苑)である。

経済的に余裕を生むためには、日ごろからしっかり働かねばなるまい。勉強に余裕を生むためには、日ごろからしっかり勉強にいそまねばなるまい。そのあとに、おのずからゆとり

が生まれる。先ずゆとりありきということはない。むしろゆとり無きゆとりなのである。前者のゆとりは余裕、後者のそれはもてあました時間ともいえる。

ゆとりが曲解され、惰眠主義にでもなればこの国の将来が危うい。小人閑居して不善をなす。至らざるところなし。大学

総じて同窓会とその活動は、一部の献身的な役員の方々の犠牲のもとに成り立っていると言つても過言ではありません。その活動が沈静している同窓会にしても、いかにすれば活性化できるか日夜悩んでいるにすぎないありません。

旭高同窓会にしても、その活動は決して活発とはいへませんが、上浦会長をはじめと一部の役員の方々が、その活性化のために頭を痛めているのが現状です。

しかし、旭高同窓会の活性化は充分に可能です。何故ならば、母校の石井校長をはじめとした教職員の方々が、同窓会に対して惜しみない協力をして下さっているからです。活性化の地味は充分で上がっています。

あとは会員諸氏の熱い母校愛、呼び掛けに呼応する率直な気持ちや表現していただければ、自ずと活性化への道は開けるといえます。その十月二十五日(日)に開催される「同窓会総会」に一人でも多く出席して下さい。そして、多感な青春時代を共通の学び舎で過ごした縁を深めようではありませんか。

# OB会と私



十四期生 田中 健司

本来私にとって旭高校はバレーボール一色の時代でしたから、今私を支えてくれているのは、あの時の厳しい練習と、先輩達の温かい援助だった。OB会に協力する様になったのも、あの時の気持ちを毎年思い出させてくれるからです。毎

# つれづれなるままに



二十五期 西川 裕之

ふとした時にかの中に浮かんでくる。その頃のイメージは、オレンジと緑で彩られ、磨硝子を通して見えてくる。そんな色褪せたものであつた。今こうして改めて

思い返してみると(つまり、三十二歳の私と、十八歳の自分を比較してみると)少なからず焦りを感じる。

失つたものと得たものを比べる、心のどこかでそれを避けきた自分であった。

時折冗談で「あの頃に戻れたら(と)つぶやく疲れたサラリーマンは、半分真剣である。そして、あの笑顔は褪せている。腹が痛くなつて、助けてくれ

と駆ける程笑うことが、めつきり少なくなつた。そのかわり、笑顔にだけはいつでもなれる自分は偉いだろう。うか。

そういつたチャンスを与えてくれる縁はとても大切だと思ふ。そして、それはは様々なエネルギーと可能性がある。同窓会にそんな期待を持つのは間違ではないと思ふ。

縁あつてこの度、会報に拙い文章を書かせていただきました。今後同窓会の益々の隆盛を心より祈っております。

# 旭で想うこと



三十二期生 小林 嘉美

旭高校には、旭の生徒、旭の卒業生でないとかからない文化の文化のようなものがある。その文化のようない文化の一つに、旭の生徒の間でか使われない言葉があります。実際、その言葉が旭の生徒、同じ世代の旭の生徒にしか通用しないのだからです。

その言葉の一つに「ヤミチャ

リ」という言葉がありました。自転車通学の許可がおりていない人が、本当は禁止されている事ですが、自転車で乗って通学し、近所に自転車を持って通学する、いいます。つまりこの言葉が使われ始め、今でも使われているかはわかりませんが、私は、この言葉が、全国の高校で通用する言葉だと信じていました。

なぜなら、旭の生徒は「ヤミチャリ」という言葉を、全員が知って使っていたからです。実際、この言葉は、旭の生徒しか通用しない言葉でした。旭高校での文化という、すくなく狭

い文化かもしれせん。しかし、旭での三年間は、他で味わう事のできないう貴重な三年間です。

今でも、旭高校時代の友人に会うと、旭高校での三年間が、昨日の事のように思い出されます。旭での、今の私とした独特の雰囲気、今の私の生活にも、何かの影を写して与えているだろうし、これからも忘れる事のない思い出もあつた。今、同窓生の多くは、社会に出て、毎日忙しく日々を過ごしています。また、ある人は、家庭に励む人も多く、目標に向けて勉強に励む人も多く、思いのままに、旭高校で過ごした、のんびりとした日々を思い出しています。

年夏に、現役と共に汗を流し、体力の衰えを感じながら、若き日の自分を思い出しています。今の現役には十分な援助はしてやれません。私達の生き方を見て、一人でも多くの先輩達が、指し練習の中から、人生の指針を見い出つてほしいと、心の中でいつつぶやいています。



三十年目の宴 「根本先生を囲む会」

九期生(旧三年五組他)集う

若葉の緑がさわやかな、平成四年五月十六日(土)、九期生(旧三年五組生と陸上部他運動クラブ有志)が、大阪は南森町にあるハローインに集合した。

「これまでの人生の中で、もどけるとしたら、どの時に...」との問いに、「やっぱり学生時代(高校)かなあ...」との答えが百パーセントならずとも返ってくる。この言葉を胸に参加した同窓会。あし

かけ三〇年目の初夏のこと、名付けて「根本七郎先生を囲む会」

この会は、我々の恩師根本先生が、平成四年三月を以って、三十六年の水きに亘る教員生活にヒリオドを打たれ、生涯の地「福島」へ戻られ悠々自適の道を進まれるということを開聞し、これを記念とすべく、急換九期生旧三年五組の幹事を中心

に旧運動クラブ員にも声をかけ、開催されたものです。

同期生は皆んな元気に颯爽と姿を現し、前回を上まわる出席率でした。根本先生は奥様を伴われ、一人ひとり挨拶を交わされ、淡々とした関東弁のその口調には、まだまだ若々しさがみなぎっていました。

乾杯と恰好をつけてスタートしたものの、瞬時にして旭高生だった昔日にタイムスリップもどかしく盃を交わし、

「〇〇とちがうか?」「あっお前か...」「あら、△△さん、その顔には言葉が飛び交う。その顔には、それそれが三〇年の歴史が刻ま

れていました。根本先生も奥様と舞台に立たれた半世紀の人間模様経験談、心境の切り変え

など、笑顔まじり



来年の平成五年三月には、我々九期生が旭高校を巣立つて九三〇年を迎える大きな節目との伏線もあって、大袈裟な言い方ですが、三年間を同じ雪雪に耐えてきた親近感の魂の当たった先生御夫婦に花束と記念品を贈り、名残りを惜しみつつ再会を約します。

旭高校同窓会役員名簿

平成元年10月22日(日)改選 次回改選平成4年10月同窓会

Table with columns: 役職名, 氏名, 卒業期, 干, 住, 所, 会. Lists officers and members of the alumni association.

旭高校創立40年記念名簿 発売中!!

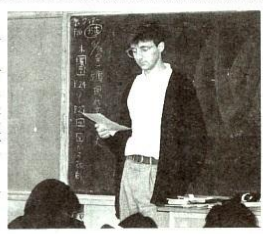
申し込みはハガキで

大阪市旭区高殿五六一四一 大阪府立旭高等学校 同窓会 ☎〇六(九五)三三三三

AET (外国人青年英語指導助手) 紹介

旭高校の印象

ロデリック・W・ウォルターズ先生 (英国 25歳)



私は旭高等学校で、一学期間教えました。この期間は私にとつてとても満足でした。一年生に教えた始めたとき、皆は私の話があんまり分かりませんでした。今はほとんどの生徒が私の

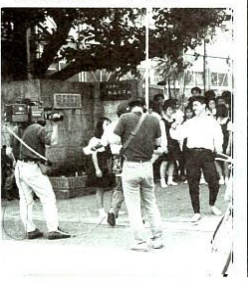


ジャックリーヌ・F・ギルピン先生(米国・23歳)

Introduction Jacqueline F. Gilpin 92.8.1 Hi! My name is Jacqueline Gilpin. I am a new English teacher here at Asahi High School. I came to Japan on July 21. My home is in Michigan, in the USA. I like living in Japan. I enjoy traveling, writing, swimming, golfing, eating desserts and meeting new people. I'm looking forward to meeting you!

「クイズ年の差なんて」に出演

在校生が人気TV番組「クイズ年の差なんて」に出演しました。(9月10日19時~関西テレビ放映) 自由な母校の雰囲気を感じさせるエピソードです。







平成四年度第二学期より、体験入学による留学生としてアメリカ国オレゴン州出身のジュリー・ジャスキルカさん(十六歳)を受け入れ、国際教養科一年六組に入學しました。日本語は、ほとんどわかりませんが、

**体験留学生入学**  
ジェリー・ジャスキルカさん

とても明るく社交的で好奇心が強く、可愛い留学生です。

ROTARY INTERNATIONAL  
YOUTH EXCHANGE STUDENT  
1992-93

Julie Jaskilka  
大田市職員証発行  
にてホームステイ中

Host: Otsuka Tourism Rotary Club, Dist. 2660  
Sponsor: Tigar Rotary, Dist. 5100, U.S.A.

これまでLL教室のなかった旭高校にも、九月からいよいよLL教室が設置され、これによってようやく国際教養科でもLL教材を用いた授業がスタートします。新しいLL教室での授業では、モニターテレビやテーブを用いたヒアリングやスピーキングの授業が中心となる予定です。生徒はそれぞれ、自分の決められた席に座り、グループや個人で先生の指導で発音の練習をしたり、モニターテレビを見ながら、演習をしたり、さまざまな国々の文化について勉強することを心がけています。LL機器の活用によって、生徒一人一人が今までより、さらに自主的に積極的に授業に取り組み、各国の言語や文化についての教養を深めることが出来るようになります。

**待望のLL教室**

とが期待されます。また、今後LL教室は、外国語の授業だけでなく、あらゆる教科、科目の授業で活用される予定です。視聴

**国際教養科  
第一次合格者発表**  
府立旭高校

一般入試に先立ち一次選抜が実施され、受験生にとっては二度の受験の機会が与えられました。二月実施の一次選抜では受験生が殺到した定員三二名に対し、一八四名、男子五三名、女子二二一名が受験しました。競争率は五・八倍となり、受験生にとって狭き門となりました。しかし三月の一般入試は定員四十八名に対し五十三名(男子十一名、女子四十二名)が受験しました。競争率も一・一倍にダウン(普通科一・一七倍)とはほぼ同じとなりました。一般入試の受験生の中には、一次選抜で不合格となった者が再挑戦して合格となった者も再挑戦して合格者が相当数いました。

**国際教養科  
第一次合格者発表**  
(2月26日)

一次選抜は国語(五〇点)数学(五〇点)英語(八〇点)の学力試験と調査書とから判定します。一般入試の場合は普通科と全く同じで国語・数学・英語・社会・理科の五科目の学力検査と調査書から判定します。英語にはどちらもヒアリングテストがあります。



覚的な面からの学習に効果が期待されます。生徒諸君には、これからどんどんLL教室を活用してもらって、自分の語学力ばかりではなく、あらゆる教科、科目の向上に役立ててほしいと願っています。なお、LL教室は、南館の三階にあり、室内には四十六のモニターテレビやセットデッキのついた生徒用のブースがあります。そして語学の授業の際には、生徒は自分のカセットに教材をタビングして授業に臨みます。生徒諸君には、一日も早く機械になれ、取り組むのが真剣に授業に参加してほしいと願っています。

(1) 普通科

学年	学級数	男子数	女子数	計
1 学 年	8クラス	147人	199人	346人
2 学 年	12クラス	255人	285人	540人
3 学 年	12クラス	269人	284人	553人
計	32クラス	671人	768人	1439人

(2) 国際教養科

学年	学級数	男子数	女子数	計
1 学 年	2クラス	17人	63人	80人

設置課程(全日制・学科・生徒数)平成四年四月八日現在

(一) 高い知性と豊かな情操を身につけ、健康な身体とたくましい実践力を養う。  
(二) 友情を重んじ自主的で規律ある生活を身につけ誠実で明るい集団生活を営む。  
(三) 創造の精神を重んじ、より豊かな未来のために、自らの力で苦難を乗り越えたく積極的に生きる力を身につける。

**部活動**

【文科系】天文・放送・書道・演劇・写真・物理・美術・ES・生物・琴・吹奏楽・合唱・茶華道・アニメ

【体育系】硬式野球・軟式テニス・バスケットボール・水泳・卓球・器械体操・バレーボール・サッカー・ソフトボール・硬式テニス・陸上・スキー・剣道

学年	入学式・新入生歓迎会	二年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会
一学期	入学式・新入生歓迎会	二年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会	三年球技大会
二学期	文化祭	体育大会	合唱コンクール	学力検査	学力検査	学力検査	学力検査	学力検査	学力検査	学力検査
三学期	一年二年実力検査	二年修学旅行	一年球技大会	球技大会	球技大会	球技大会	球技大会	球技大会	球技大会	球技大会

**旭高校ガイド**

高い知性と豊かな情操の教育を目指して  
伝統の普通科と新しい時代の国際教養科

**教育方針**

本校は、真理と正義を愛し、社会的責任を自覚し、国際的理解と協調の精神並びに人間尊重の精神を重んずる。平和で民主的な国家、社会の成員にふさわしい人物を育成するための次の目標を定める。

(一) 高い知性と豊かな情操を身につけ、健康な身体とたくましい実践力を養う。  
(二) 友情を重んじ自主的で規律ある生活を身につけ誠実で明るい集団生活を営む。  
(三) 創造の精神を重んじ、より豊かな未来のために、自らの力で苦難を乗り越えたく積極的に生きる力を身につける。

**学習の重点**

生徒一人一人がその進路を実現できるように、基本的基礎的な学力を身につけさせるために授業を大切にするとともに、適宜補習を行ない実力の養成を図っている。

**主な進学先(合格校)**

進路先	合格者数
四年制大学	一四七名
短期大学	一六五名
専門学校	七四名
就職(企業)	一五名
就職(公務員)	一五名

本校では、ほとんどの生徒が進学を希望している。就職するものは例年一〇二〇名程度である。(平成三年三月卒業生)

・柔道・山岳  
【同好会】コンピューター・新聞・民族音楽研究

